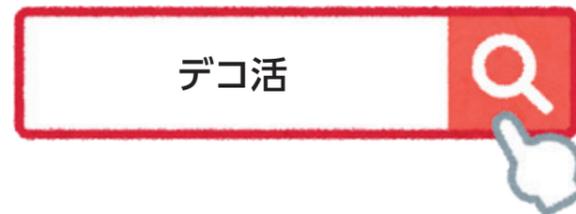




「地球温暖化」 その3

今回は、「デコ活アクション」のお話です。  
デコ活アクションとは、具体的な取り組みの事例として3分野、13種類の「デコ活アクション」を環境省で決定しました。そこで3分野の分類1をご紹介します。

【ここに注目！】  
できるエコからはじめよう！「いばらきエコスタイル」



分類1	アクション	
まずはここから	住 <b>デ</b>	電気も省エネ 断熱住宅 電気代をおさえる断熱省エネ住宅に住む
	住 <b>コ</b>	こだわる楽しさ エコグッズ LED・省エネ家電などを選ぶ
	食 <b>カ</b>	感謝の心 食べ残しゼロ 食品の食べきり、食材の使い切り
	職 <b>ツ</b>	つながるオフィス テレワーク どこでもつながれば、そこが仕事場に



認知症地域支援推進員のつづやき No.79 「新しい認知症観」とは

高齢化の進展に伴い、団塊の世代が75歳になる今年（2025年）には、認知症の人は約700万人（65歳以上の高齢者の約5人に1人）となる見込みです。認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、「認知症の人が認知症とともによりよく生きていく」ことができる環境整備が必要となります。

令和6年1月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。ここでは、「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間などと繋がりがながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という「新しい認知症観」が示されました。私たちは、「古い認知症観」から「新しい認知症観」へ意識を転換していくことが求められています。まずは、一人一人が、自分のこととして、認知症への理解を深めていくことが大切です。

古い認知症観 (他人ごと、問題重視、疎外、絶望)	新しい認知症観 (わがごと、可能性重視、ともに、希望)
①他人ごと、目をそらす、先送り	①わがごと、向き合う、備える
②認知症だと何もわからない、できなくなる	②わかること、できることが豊富にある
③本人は話せない / 声を聞かない	③本人は声を出せる / 声を聞く
④おかしい言動で周りが困る	④本人が認知症バリアの中で一番困っている。本人なりの意味がある。
⑤危険重視	⑤あたりまえこと（人権）重視。自由と安全のバランス
⑥周囲が決める	⑥本人が決める（決められるように支援）
⑦本人は支援される一方	⑦本人は支え手でもある。支え - 支えられる関係
⑧認知症は恥ずかしい、隠す	⑧認知症でも自分は自分、オープンに
⑨地域で暮らすのは無理	⑨地域の一員として暮らし、活躍
⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望的	⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望を

表：認知症地域支援推進員研修資料より

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

- 利根町地域包括支援センター ☎68-2211
- 利根町保健福祉センター ☎68-8291
- 複合福祉施設 響 ☎61-8500
- 介護老人保健施設もえぎ野 ☎84-6081



アンコンシャス・バイアスと固定的性別役割分担意識

アンコンシャス・バイアス 固定的性別役割分担意識とは

アンコンシャス・バイアスは、「無意識の思い込み、偏見」と訳され、特に「男は仕事、女は家庭」というように、性別を理由にして、役割を固定的に分ける考え方を固定的性別役割分担意識といいます。

身近なアンコンシャス・バイアスの一例を挙げてみると…

- ・血液型で性格を想像してしまう
- ・外見や学歴で相手を決めつけてしまう
- ・看護師と聞いてまず女性を思い浮かべる
- ・出身地でお酒が強い人かどうかを想像してしまう
- ・定時で帰る人は、やる気がないと思う



次に固定的性別役割分担意識の一例を挙げてみると…

- ・女の子はやさしく、男の子は強くあるべき
- ・経済的な責任は夫が負うもの
- ・世帯主は夫、妻は夫の姓を名乗るべき
- ・子どものしつけやお年寄りの介護は女性がすべき
- ・お茶出し、受付対応、看護師、保育士という女性を思い浮かべる
- ・「親が単身赴任中」というと、父親を想像する（母親を想像しない）
- ・子どもが病気になったときは母親が休んだほうがいいと思う



アンコンシャス・バイアスは誰にでもありますし、今までの経験や見聞きしたことに影響を受けて、培われていくものですので、それ自身が問題ではありません。

しかし、自分の無意識の思い込みや固定的性別役割分担意識によって、知らない間に相手を傷つけたり、キャリアに影響を及ぼしたり、自分の可能性を狭めてしまうなど、様々な影響があるので注意が必要です。時には、ハラスメントや不公平を生み、組織や社会の「見えない障害」となります。

問題なのは、自分のアンコンシャス・バイアスに気づかないことにあるので、「自分の偏見や言動が周囲に悪影響をもたらすのではないか」という意識を持ち続けることが大切です。私たちひとりひとりのアンコンシャス・バイアスへの気づきが、多様性を認め合う社会の実現に繋がっていくのです。「これって私のアンコン!？」と問いかけてみませんか。

● 問い合わせ 政策企画課 政策企画係 ☎68-2211 (内線338)